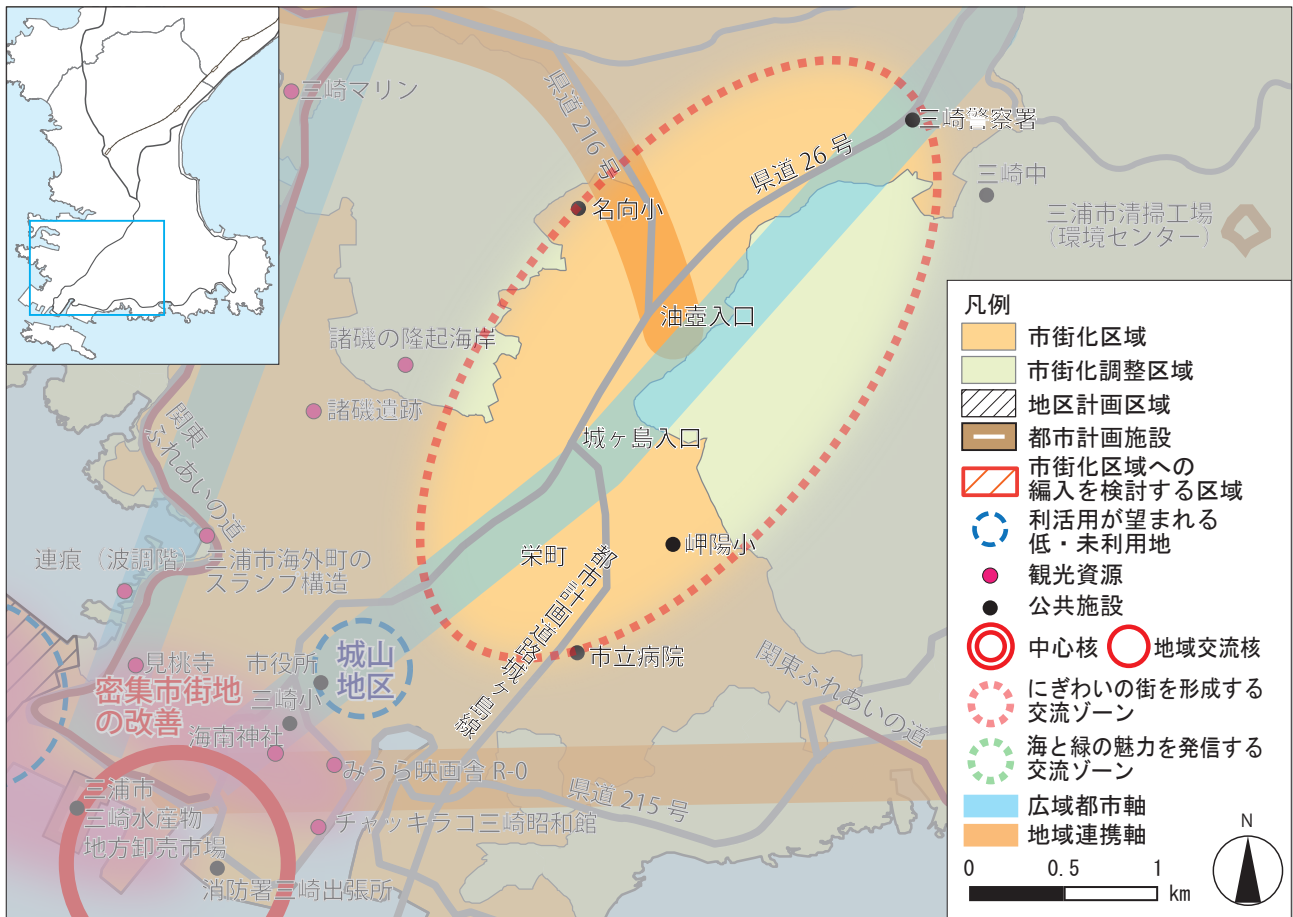


エ 三崎上町周辺（三崎警察署付近～城ヶ島入口付近）（図 3-6-5 参照）

本ゾーンは、「ウ 三崎下町・二町谷・城ヶ島周辺」と近接した三浦市の南西部に位置し、鉄道駅から遠いことから県道 26 号への依存度が高く、土日祝日などには交通渋滞が発生しており、交通利便性に課題があります。人口については減少が著しく、それに伴い空き家も多い状況となっています。

県道 26 号、都市計画道路城ヶ島線の沿線に、商業施設や金融機関、店舗併用住宅、三浦市立病院や岬陽小学校、名向小学校等の公共施設等が立地しており、その他は、戸建て住宅や小規模な集合住宅が立地しています。

これらのことから、近隣住民の日常生活を支える地区の商業地として、商業・サービス機能の立地を推進し、周辺環境と調和したゆとりのある良好な住環境の形成を目指します。



■ 図 3-6-5 三崎上町周辺（三崎警察署付近～城ヶ島入口付近）

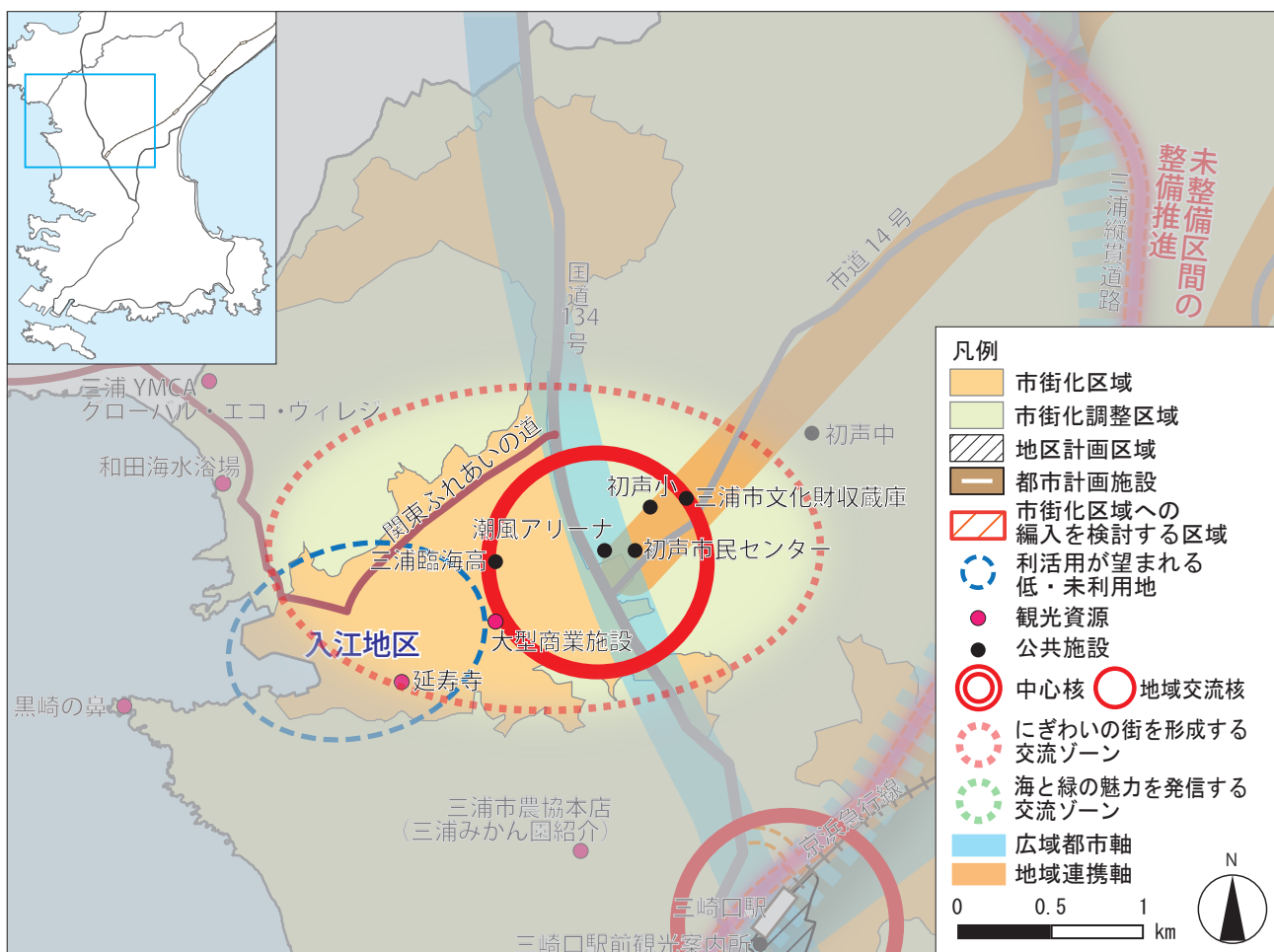
オ 下宮田・入江周辺（図 3-6-6 参照）

本ゾーンは、三浦市の北西部に位置し、隣接市と近く、鉄道駅から少し距離はあるものの、国道 134 号、及び、三浦縦貫道路が高円坊まで供用開始された際に、三浦市の南部に向かうための経路上にあり、比較的交通便利性は高くなっています。公共施設等が数多く立地し、近年大型商業施設が立地されていますが、人口については、減少傾向にある地域となっています。

潮風アリーナ周辺は、定住・交流を支える機能が集まる代表的な市街地である『地域交流核』であり、周辺には、自然環境豊かな海浜地が存在しており、景観も優れていますが、利活用が望まれる低・未利用地が存在し、市の活性化につながる利活用が期待されています。

これらのことから、広域交通、地域内交通の結節点として、商業・業務機能等の充実を図りながら、幅広い交流機能を備えた将来の中心市街地形成及び豊かな自然と調和したゆとりのある市街地整備を進めながら、良好な住宅地の形成を目指します。

また、防災面では、海に近く、また、内陸部まで海拔が低い地域であり、津波や高潮、大雨等への対策が必要であることから防災・減災対策を進めていきます。



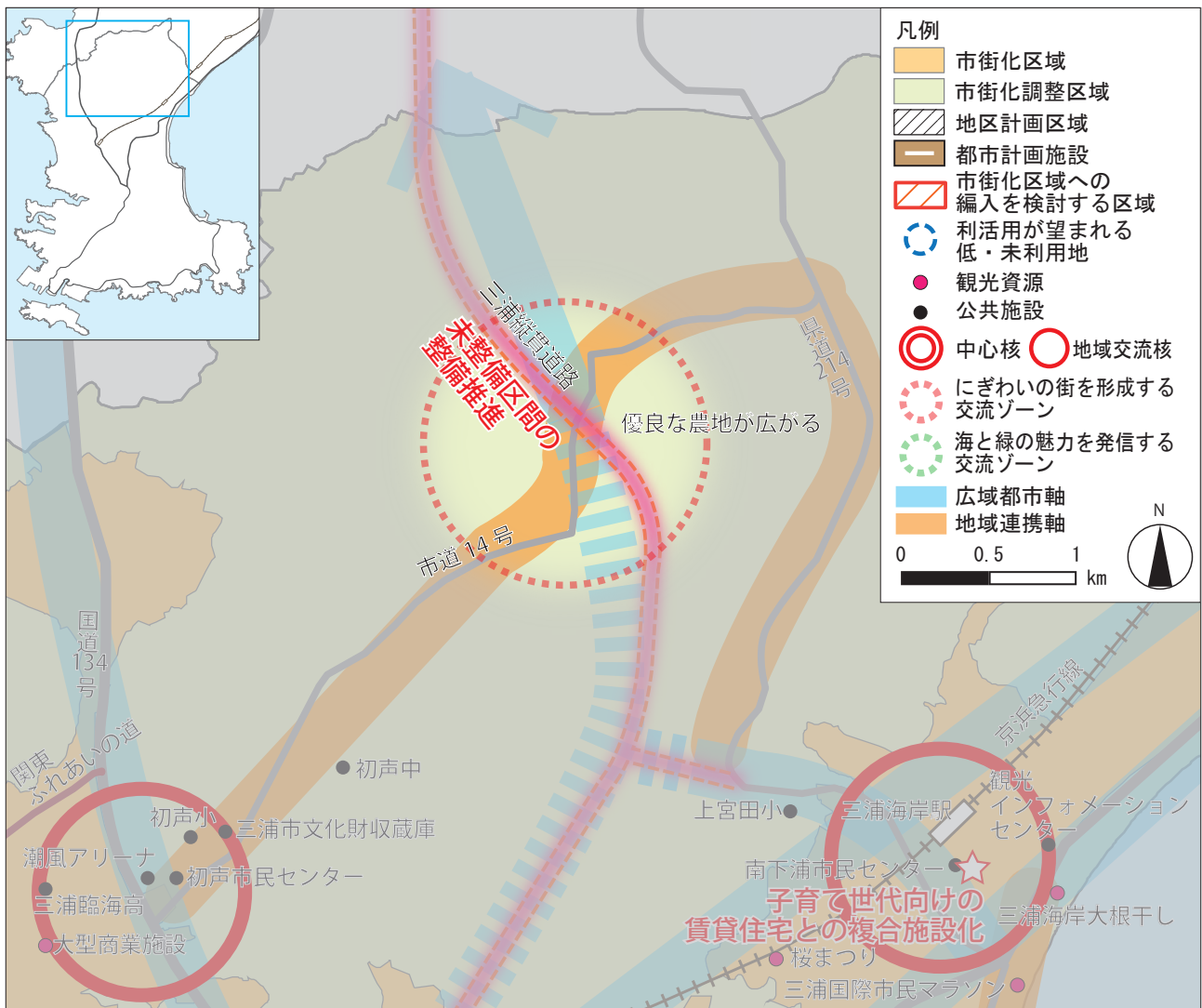
■図 3-6-6 下宮田・入江周辺

カ 高円坊周辺（図 3-6-7 参照）

本ゾーンは、三浦市の北部に位置し、鉄道駅から遠く、県道 214 号沿いにバス停が 2 つと交通利便性に課題がありますが、三浦縦貫道路の供用開始により市外への交通利便性は高くなっています。優良な農地が広がり、みかんやいちごなどの観光農園も立地しており、基幹産業である農業の代表的な生産地のひとつとなっています。また、建物の立地が少ないですが、町単位（高円坊）では、人口は横ばいの状況となっています。

また、三浦縦貫道路の未整備区間は、市内外との連携を促進する本市の骨格的な交通軸として整備推進を図っています。

これらのことから、市外への交通利便性を活かした交流機能の拠点の形成及び農業環境に配慮したゆとりのある良好な住環境の形成を目指します。



(2) 海と緑の魅力を発信する交流ゾーン

ア 油壺周辺 (図 3-6-8 参照)

本ゾーンは、三浦市の西部に位置し、交通としては、県道 216 号の沿線となっていますが、市内外への移動のため接続する県道 26 号は土日祝日などには交通渋滞が発生しており、また、鉄道駅から遠いことから交通利便性に課題があります。人口については、町単位（小網代）では減少傾向となっています。

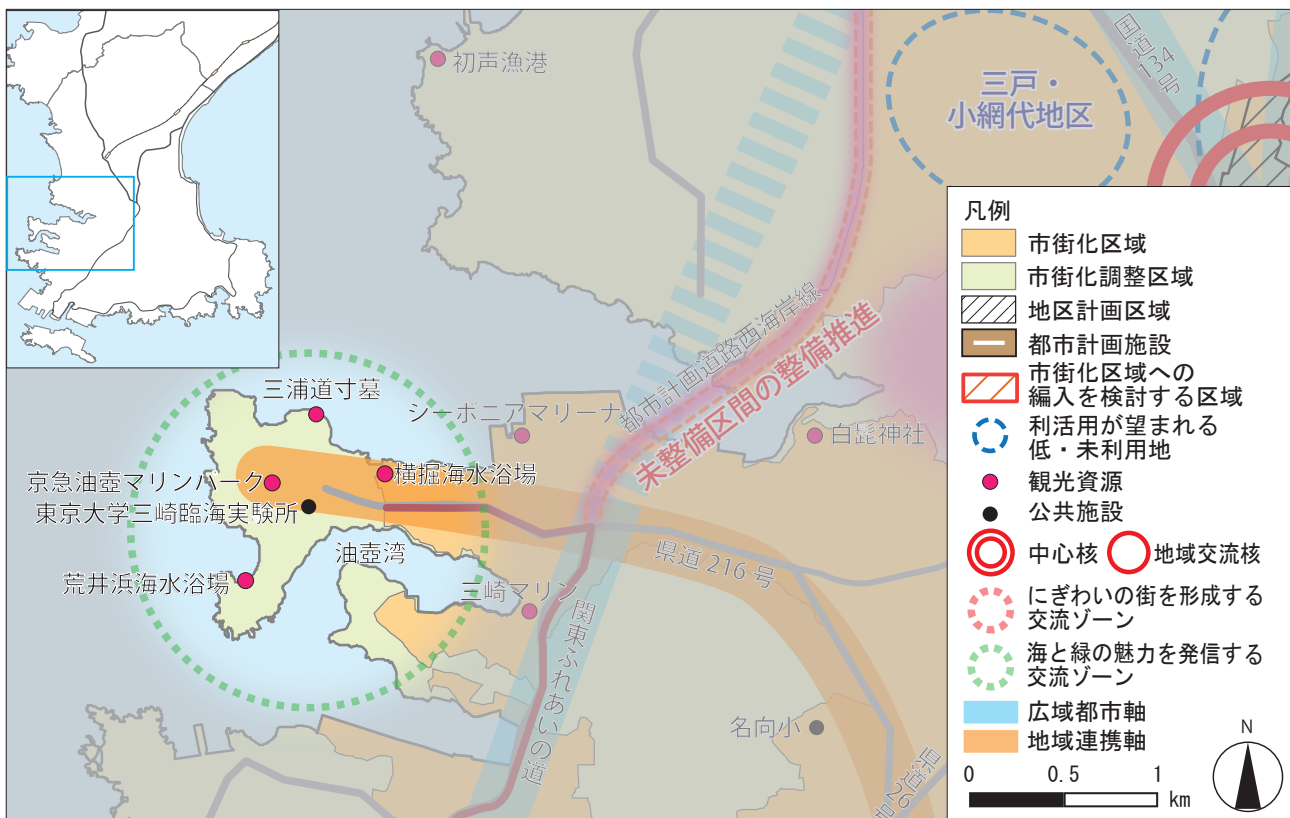
自然環境に富んでおり、複数の海水浴場のほか、三浦一族終焉の地であることや、世界で最も古い臨海実験所の 1 つである東京大学三崎臨海実験所が立地しているという歴史的な背景や、油壺マリンパークなどの観光資源を求めて多くの観光客の来遊があります。

油壺湾は地形上の特性から静穏度が高く、台風時には相模灘沿岸の各地から 300 隻を超える漁船等が避難してきます。

また、都市計画道路西海岸線の未整備区間は、市内外との連携を促進する本市の骨格的な交通軸として整備推進を図っています。

これらのことから、自然環境に富んだ立地を最大限活用するため、自然環境の維持・保全を図りつつ、地域の観光資源を活かしたリゾート性のある商業地として発展及び自然環境に富んだ住宅地の形成を目指します。

また、防災面からは、海に近く津波や高潮等への対策が必要であることから、防災・減災対策を進めていきます。



■図 3-6-8 油壺周辺